

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	もやいのえんがわ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1つのことに特化せず、児童や保護者様のニーズや課題に応じ、児童発達支援ガイドラインに沿った総合的な支援を実施し、自立支援を行っている。	毎月のプログラムを児童発達支援管理責任者を中心に組み、各職員の強みを活かした療法を実施している。	個別支援の中で面談や会話により、より細かなニーズや課題を見つけ、療育に活かすこと。
2	複合型施設にある事業所で、屋上の畑で野菜や花などを育てることができる。また、高齢者施設の利用者様と一緒に植えたり、収穫をすることで交流が生まれる。また、広い空間を活かした活動を楽しむことが出来る。	児童と一緒に畑の土づくりや野菜、花の苗植えを行ない、野菜・花の成長を見届ける。収穫時期になると収穫した野菜をつかったおやつなどを作る。自分で作った野菜を使うことで食育にも繋がっている。	高齢者施設の利用者様との交流が多く設けれていないため、さらに関わる機会が増えるよう高齢者施設の職員と連携を取り、計画していく。
3	法人本部で毎月第3土曜日に開催しているマルシェへの参加により、地域の子どもたちとの交流機会がある。また、お店でのお買い物やボランティアなどに積極的に参加している。	マルシェの参加だけでなく、近隣施設へのおでかけなど児童が様々な体験ができるように計画し取組んでいる。	地域の子ども達だけでなく、保護者様参加型の療法やイベントなどを充実させていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急時対応マニュアルや安全計画を策定し、訓練を実施している。また、複合型施設全体の苦難訓練も年2回実施しているものの、実際に災害が発生した際、施設全体でスムーズな避難が可能かについては課題や改善は必要だと考える。	当事業所だけの避難であれば、スムーズに行えると考えるが、施設全体でスムーズな避難が行えるように各事業所との連携が重要。	会議や委員会での情報共有や合同訓練時の課題点の修正を実施すること。
2			
3			